

韓国環境部プレスリリース【2019-10-15 付け】

京畿道漣川郡長南面の民間人統制線付近のイノシシの集団からアフリカ豚コレラウイルスの検出。

<http://www.me.go.kr/home/web/board/read.do?pagerOffset=0&maxPageItems=10&maxIndexPages=10&searchKey=&searchValue=&menuId=286&orgCd=&boardId=1064700&boardMasterId=1&boardCategoryId=&decorator=>

以下、機械翻訳などによる仮訳

10月15日、環境部は、京畿道漣川郡の民間人統制線付近のイノシシからアフリカ豚コレラウイルスが検出された(野生イノシシ6例目)と発表したところ概要以下のとおり。

【本文】

環境部所属の国立環境科学院(院長チャン・ユンソク)は、10月14日、京畿道漣川郡長南面板浮里民統線の近くで発見されたイノシシへい死体でアフリカ豚コレラウイルスが検出されたと発表した。

10月14日午前8時10分頃、民統線付近(900m)で軍人がへい死体を発見し、漣川郡に申告し、漣川郡は午前11時頃、試料採取後、野生のイノシシ標準行動指針(SOP)によって死体を消毒・埋却した。

※試料採取及びへい死体埋却後、作業者の消毒、周辺防疫作業を実施。

一方、科学院の現場対応班は迅速な試料移送のために午前11時頃、通報を受けて出勤し、同日午後5時頃、分析に入って10月15日午前4時頃にアフリカ豚コレラウイルスを確認した。

チョン・ウォンファ国立環境科学院・生物安全研究チーム長は「10月14日に漣川から申告された5つのへい死体のうち1個体からウイルスが検出された。この10月12日に(へい死体からウイルスが)検出された京畿道漣川郡旺澄面江西里から約11km離れているとし「この地域では感染したへい死体さらに増える可能性があるため当局の防疫措置を遵守して積極的なへい死体申告を呼びかけている」と述べた。

(以上)